



2012年6月  
国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所

## ヘレン・クラーク国連開発計画(UNDP)総裁 紹介資料

### 1. ヘレン・クラークUNDP総裁について

ニュージーランド首相を9年間務めた後、2009年4月17日に女性初の国連開発計画(UNDP)総裁に就任した(任期4年)。国連事務総長、副事務総長に次ぐ国連事務次長として、国連システム最大の開発ネットワークであるUNDPを率いる一方、国連の開発事業全体を調整する国連開発グループ(UNDG)議長を兼務する。

UNDP総裁就任以来、国際場裏における開発議論を牽引する一方、約1年間のうちに、地震被災直後のハイチを含む40カ国以上を歴訪した。訪問先では、政府・市民社会・民間セクター等との対話とパートナーシップ強化を進める一方、各地においてUNDPの開発事業を精力的に視察している。

2009年11月には、UNDP総裁として初めて日本を訪問し、内閣総理大臣をはじめとする政府首脳との会談、参議院政府開発援助等に関する特別委員会における演説の機会を得たほか、国際協力機構(JICA)と事業連携に関する覚書を締結した。これらを通じて、UNDPと日本の戦略的なパートナーシップを強化するとともに、気候変動、アフガニスタン支援、アフリカ支援とミレニアム開発目標(MDGs)等における協力の一層の強化を提案した。2011年6月には日本政府主催、UNDP他共催のMDGsフォローアップ会合に出席するため来日したほか、同年9月の国連総会時に日本政府が主催したMDGsに関する閣僚級非公式会合ではパネルディスカッションの司会を務めた。

### 2. クラーク総裁の略歴

1950年ニュージーランド、ハミルトン生まれ。1971年にオークランド大学で学士号、1974年に修士号を取得。1981年に国会議員に初当選し、議会外交・防衛常任委員会委員長、軍縮・軍備管理特別委員会委員長、自然保護大臣、住宅大臣、保健大臣、労働大臣、副首相等の要職を歴任。1993年に労働党党首となり、1999年には同国初となる女性首相に就任。2008年11月まで3期約9年間務めた。

### 3. 訪日歴：10回 (\*以下近年の訪日を抜粋)

2001年4月	ニュージーランド首相として訪日
2005年6月	愛知万博公式訪問
2008年5月	ニュージーランド首相として訪日
2009年11月	UNDP総裁として訪日
2010年12月	UNDP総裁として訪日
2011年6月	UNDP総裁としてMDGsフォローアップ会合出席のため訪日
2011年12月	UNDP総裁として来日